



竹の会所 復興の方舟/上棟式:久々の餅まきにみんな笑顔

photo : Sadao Hotta

「わーっ」「おおーっ」大きな歓声が子どもたちと、大人たちから上がる。今日は、宮城県石巻牡鹿半島の桃浦集落で集会所の建設のお祝いだ。住宅ユーニットのリユースによる集会所のプロジェクトを支援として進めってきたユイノハマプロジェクトと、浜の漁師さんたちが協働で、震災後ばらばらの地域に分かれて所でそれが始まっている。

小さな集いの「場所」をつくり二つの「一緒になる」「出来事」を立ち上げ、本来あつたつながり^②（タメマエ）を企画したのだ。

「かたちにする。今、様々な場所でそれが始まっている。」^①（ミニミニ）テイの力を目に見える会所の建設のお祝いだ。住宅ユーニットのリユースによる集会所のプロジェクトを支援として進めてきたユイノハマプロジェクトと、浜の漁師さんたちが協働で、震災後ばらばらの地域に分かれて所でそれが始まっている。

立生活センター」という事業所の仮設住宅地が建設された所だ。現在約100戸の仮設住宅が建っており、主に福島第一原発から30km圏内の広野町、楢葉町をはじめ、いわき市沿岸部の津波被害の方々も移住してきた。支援物資として九州の企業から贈られたパオ型の建物三基を敷地内に設置し、「パオ広場」を立ち上げました。と事業所の松田文さんからお話を聞いた。高齢者のお茶のみ場、カツサロ、マンサージ、子どもたちへの放課後の遊び場宿題スペースの提供などがこの場所で行われている。アルコール依存症や賠償関係などの各種相談会も始めた。

「周辺仮設住宅地に『月刊ぱお広場』という新聞を発行し、ボランティア数名で二軒ごとに手配りすることにしました。また、パオ広場について知つてもらつぎしかければと月に二度イベントをするようにしました。そういう活動により、少しずつ活動を認知してもらえるようになります。」

特集

仮設発の コミュニティづくり

つながりをかたちに

03

WA
WA
NEWSPAPER
わわ新聞人と人との心をつなぐ
コミュニティ新聞
岩手県・宮城県・福島県にて、隔月発行。

- 1 特集 仮設発のコミュニティづくり
つながりをかたちに
- 4 「わわの輪」
各地の活動と人々のひがり
- 6 「わわのひと」インタビュー
復興に向かうひととプロジェクト
- 8 連載「仮設のイーハトーヴ」
希望に向かうものがたり

東北では「私」のことを「わ」と発音する。
多くの「わ」が大きな「わ=街」をつくりあげる事を願い
「わわ」プロジェクトと名付けられました。

した。」と松田さんは語る。

「日中やることがない」という声を耳にして「烟」が人生そのものだという方がとても多いことにパオ広場のチームは驚かされ、事業所の中に菜園をスタートさせた。

煙で「いっしょに働く」ことが、複数の地域から来ているこの場所で人を結ぶ助けになつていた。

今は、近くの休耕田を借りてより本格的な農業にまで視野を伸ばし農作業することで今までの

生活スタイルを取り戻し、心身のリフレッシュの場を提供すること

と同時に、その先、地元に帰った後の農業再開の可能性を探る場としても考えたいと思っている。

「パオ広場に来る子どもの中には、家仮設住宅^③にも外にも居場所を見つけられず精神的に追い詰められている子ども達も達もいる。仮設住宅の集会所を使つて児童クラブなども始まっていますが、パオ広場は放課後の自由な場として子どもたちのために開放し続けます。もう大がかりな炊き出しイベントをする時期は終わりました。今後は元気のない部屋にひきこもっている人々にも目を向けながら、地道な活動をしていきたいです。」

そう松田さんは考えている。

仮設発の コミュニティから その先にあるもの

「設住宅地」に「住宅」だけではなく、いろいろな用途^④（たとえば商業活動や福祉活動）を混ぜることだつた。ミックスされた活動を

「コミュニティ」から「スタジオ」にして目標そくと考えました。

いまここに「仮」ではなく、実際の生活をきちんと作り実践することが復興まちづくりのプロセスそのものなのです。仮設^⑤と復興^⑥を切り離してはいけないの

「仮設だから」という考え方方だ。「仮設だから」といふ言葉をきかんと作り実践することが、高齢者にも優しい社会の新しいコミュニティをここからスタートして目指そくと考えました。



❶ 上下の温度差・足元の寒さ

床は基本的に断熱されていますが、気密性が必ずしも完全でないため隙間風が生じる場合があります。基礎の腐食を防ぐために床下の通気は大切ですが冬はある程度床下空間を風に対して閉じる工夫ができるとよいと思われます。

❷ 窓断熱

壁パネルと、柱の間の隙間などをテープを張つて隙間風を止めることが効果的です。



餅まきの準備を皆で

photo : Satoshi IWAMA

（四）ユニット型の仮設住宅での結露対策

費用や工事が大変ですが、外側から断熱材を貼ることで柱、窓枠などを伝わるヒートブリッジによる冷気の吹き降ろしを防ぐことができます。基礎の腐食を防ぐために床下空間を風に対して閉じる工

度床下空間を風に対して閉じる工事が必要です。これらを室内側に設置する方で、隙間に入り込んだ水蒸気による結露の危険性があるので（全面でなくとも屋外側に設置する方がより効果的です）。

ハートが1つ
ありました。



〔仮設の使いこなしの工夫〕を写メールなどで送ってください。宛先：m@kase2.net <投稿の書式>タイトルに投稿者のニックネーム、それに写真を添付します。「かせつの輪」ウェブサイト <http://www2.kase2.net/mbs>

仮設住宅の結露、 防寒対策について

冬に入り結露が発生しやすくなるります。東北大大学建築環境学の吉野博教授からアドバイスをいただきました。今からできることもあると思いますので紹介いたします。

❶ 断熱・気密

壁パネルと、柱の間の隙間などをテープを張つて隙間風を止めることが効果的です。

❷ 窓断熱

壁パネルと、柱の間の隙間などをテープを張つて隙間風を止めることが効果的です。

<http://wawa.or.jp/>

コミュニティやつながりは普段の生活の中に気づくことができるものです。あなたの周りにもこんなシーンが見られるのではないかでしょうか。

「いっしょに話す、笑う」

あいさつを交わす、同じ話題について話す、相槌をうつ、相手を気づかう。





- わわな人」「わわの輪」の情報をお送りください。**
- ほかの地域の活動を
知ってみたいと思いませんか。
ほかの地域の人たちも
そう思っていると思います。
- 各地域で、頑張っている
活動、グループ、ひとに
ついて編集部まで
お知らせください。
わわ新聞を通じて
輪を広げるお手伝いを致します。
- Fax: 03-6803-2442
e-mail: info@wawa.or.jp
- 4 特定非営利活動法人 吉里吉里**
代表: 大槌町 吉里吉里
がれき廻材を活用した薪生産と販売で、吉里吉里の雇用と経済の復興を目指します。
<http://kirikiriku.main.jp/>
photo: Takeshi HOSOKAWA
- 11 県立大学ボランティアセンター ～いわてGINGA-NETプロジェクト～**
実施主: いわてGINGA-NETプロジェクト実行委員会
岩手県立大学生ボランティアセンター等が主催。
全国の学生と被災地で学習支援等をしています。
岩手県沿岸部、盛岡市
<http://www.iwatingega.net/>
- 5 さんさんの会**
代表: 菊池真有
被災した浜の女性たちに仕事を! 渔網で編んだミサンガを販売し、仕事をとり戻そう。
<http://www.sankoku-shigoto-project.com/>
- 9 三陸に仕事!プロジェクト 岩手県沿岸部 実行委員長: 佐藤滋樹**
被災した浜の女性たちに仕事を! 渔網で編んだミサンガを販売し、仕事をとり戻そう。
<http://www.sankoku-shigoto-project.com/>
- 29 山元町共同作業所 工房地球村 宮城県 山元町**
代表: 田口ひろみ
障害を持つ人が地域でいきいきと暮らすため、地域再生支援を支援するための活動、壁面を使ったギャラリー展示、パンフレットなどの資料の配布、簡単なワークショップや、ミーティングなどにお使いいただけます。お気軽にお問い合わせください。
開場時間: 12:00~19:00 (火曜日)
連絡先: わわプロジェクト 080-4150-2550
<http://wawa.or.jp>
- 35 合同会社 頼朝れ塙壺 宮城県 塙壺市**
代表: 及川文男
古代より塙製造のわざわれた塙釜で、昔ながらの製法で塙作り続ける合同会社。津波の被害を受け、神棚とともに以外に流されたが、町の古氣を取り戻し、地域独自の食文化を後世に伝えるため「塙ミュージアム」を構想しています。
<http://www.mosio.co.jp>
- 30 がんばっついわきネットワーク**
代表: 鯉江里子
仮設住宅で在宅避難中の被災者、生活支援が必要な方のお困りごとの相談やサポートを行います。大槌町会議協議会、遠野まごころネットと連携。
- 12 復興支援UG計画 仙台・石巻・塙・鳴子 宮城県**
代表: 村上カクシ
表現者と仮設住宅の方々は、いっしょに創作活動を行うことで心のケアを行ない、協働環境を目指します。
<http://minix.org>
<http://minix.org/UG.htm>
- 16 うらと海の子再生プロジェクト**
うらと海の子再生プロジェクト事務局
塙巻市 湘南諸島
「一口オーナー制度」により漁業者自らの足で歩む力を支援する為のプロジェクト。
shopmaster@urot-uminocho.jp
<http://www.uminocho-saisetsu.net>
- 19 いわきぼうけい映画祭 いわき市**
主催: いわきぼうけい映画祭実行委員会
いわき文化芸術交流館アリオス
避難所や仮設住宅周辺のコミュニティ活動の上映会により、子どもの心を豊かにする
<http://iwb.jp>
- 21 日本ユニバ震災対策チーム いわき支部 いわき市**
代表: 小針幸丈
孤立した被災地への支援を目的とした支援ネットワークポータル。
[http://www.wangura.net/nc/](http://www.wangura.net)
- 22 特定非営利活動法人 うつくしまNPOネットワーク 事務局: 鈴木和隆**
県全域の市町村間の絆を深めるコーディネートや生活再建の支援などのネットワーク。
<http://www.iw-kotobuki.co.jp/>
info@iw-kotobuki.co.jp
- 23 鈴木酒造店 鈴木大介**
酒蔵は失ったが、震災先で酒造りを再開し、地域の心をつなぐ。
<http://www.wutsukushima-npo.jp/>

- 8 3.11絵本プロジェクトいわて**
代表: 末盛千枝子
岩手県内陸部
市内被災者支援団体の連絡をベースに、仮設、みなし仮設住宅入居者、在宅被災者等支援の必要な全ての人に、顔の見える繋がりのなかで、人のつながりを重視し生活再建のお手伝いを行っています。
<http://www.ehonproject.org/iwate/>
- 10 AD BOAT PROJECT 岩手県、宮城県、福島県沿岸部**
F1スponsaのように、漁業道具の購入資金を募り、漁業復興をめざします。
<http://www5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/>
- 26 これからのくらし仕事支援室 岩手県全県**
岩手県民の生活(暮らし、仕事、こころ、お金)の相談と情報提供を無料で、被災者の生活再建支援を担当者が寄り添い、継続的に制度横断的に支援しています。
019-636-1215 (相談時間:月~金 10:00~17:00)
<http://korekura.jp/index.html>
- 15 石巻ワンダーランド 石巻市、女川町**
桃原千恵
仮設住宅で在宅避難中の被災者、生活支援が必要な方のお困りごとの相談やサポートを行います。大槌町会議協議会、遠野まごころネットと連携。
- 27 一般社団法人 バーナードサポートセンター 宮城県 仙台市**
代表: 新里宏二
応急仮設住宅入居者の日々の見守りや福祉のサポート、仮設入居者の居所探し、就労支援を仙台市と連携して実施しています。
<http://web.capania.info/fukkou/archive/19>
- 14 アーティストラン!! イボイシステーション!!**
塙巻市仮設住宅、今宮地区、伊保石地区
ピド・フルア代表: 富田修
DIYやものづくり交流会を通じてアーティストが仮設住宅のコミュニティを支援します。
<http://tonomagokoro.net>
- 31 被災者のための交流スペース「ぶらっと」**
福島県 いわき市
いわき駅前ラジオ2階に地域のフリーペーパーを集め情報コーナー、イベント出来てふらっと立ち寄れるスペースを運営、地域情報紙「ぶらっと通信」を発行、被災者の自宅に郵送。
- 17 仮設カスタマイズお助け隊 東北工業大学工部 新井幸華・大林政夫**
日曜大工で仮設住宅の生活を元気に!
あすと長町 仮設住宅・仙台市
info@masaarch.com
- 18 繁プロジェクト 石巻市、女川町周辺**
一般社団法人 東北産業復興プロジェクト: 北村正尊
自立支援サポート「繁」運営により、避難者と支援者をダイレクトに繋ぐ。
<http://info27.jp>
- 20 地域活性プロジェクト[MUSUBU] いわき市**
代表: 宮本英美・末永早夏
人、地図、デザイン…様々な分野を結び、クリエイティブな産業からワクワクする町づくりを目指す。
<http://info@musbubu.me>
<http://www.musbubu.me>
- 22 特定非営利活動法人 うつくしまNPOネットワーク 事務局: 鈴木和隆**
県全域の市町村間の絆を深めるコーディネートや生活再建の支援などのネットワーク。
<http://www.iw-kotobuki.co.jp/>
info@iw-kotobuki.co.jp
- 23 鈴木酒造店 鈴木大介**
酒蔵は失ったが、震災先で酒造りを再開し、地域の心をつなぐ。
<http://www.wutsukushima-npo.jp/>
- 30 がんばっついわきネットワーク**
代表: 鯉江里子
仮設住宅や借り上げ住宅などに避難しているいらっしゃる方々の支援コードネームと心のアドレスを中心に、個体の方々の支援コードネームと心のアドレスを中心に、長期的な視点で環境、文化、経済など岐阜に渡る地域づくりを展開しています。
erico_winds@hotmail.co.jp
<http://www.facebook.com/GanbappelwakiNetwork>
- 36 ISHINOMAKI 2.0 宮城県石巻市**
石巻の若い商店店主たちと商店街再生を目指して、再生可能な物件を使い、次世代エールギーの実験施設や復興バー、商業や文化の観点から未来の石巻を開拓していきます。
info@ishinomaki2.com
<http://ishinomaki2.com>
- 37 子どもの声が響く商店街に 宮城県気仙沼市南町**
運営: 南町・柏崎青年会、気仙沼復興商店街
商店街の中にある、子どもたちが安心して活躍できる、子どもたちが気軽にの練習、自由に遊べるスペース、子どもたちが文化芸術に触れる拠点を目指しています。
<http://i-jp.facebook.com/cadocco>
- 34 ユノハマプロジェクト**
代表: 田間賀、大島公司
ともに過ごし、ともに汗を流し、ときには同じ釜の飯を食すことにより生まれた関係を大切にしながら、石巻市桃浦地区や東北小学校にこれからを手伝っている。美術家や音楽家、建築家、デザイナーなど想いに共鳴した仲間が集まり、長期的な視野をもとに活動中。
info@yuinohama-p.co
<http://yuinohama-p.com>
担当: 大島公司
- 32 中央台暮らしサポートセンター パオ広場**
松田文
仮設住宅を集まるいわき市中央台にてテントを設置。こども、高齢者、障がい者の情報交換の場として開放。フリーイベントはお広場へ入居者に手渡し、支える活動を行う。
<http://paohiroba.jugem.jp/>
- 3 いわて連携復興センター 岩手県沿岸部**
代表: 斎藤順一
震災後3月28日設立。地域住民による地域再生を目指して、支援や助成情報を登録し、コミュニケーションビジネス立ち上げのための情報を提供する。
<http://www.iwf.jp>
- 37 子どもの声が響く商店街に**
岩手エリアプロジェクトリーダー 石田朋子
た「岩手の人」をいました。彼は、落ち着いて思慮深く、周囲の雰囲に惑わされる事なく、黙々と努力を重ね、目的に向かう岩手の人「沈黙の如き」と詠いました。
昔から東北の人々は冬の寒さはもちろん、今回のよう天災や飢餓、自然の厳しさに黙々と耐えてきたのだと思います。しかし、自然の尊威を把握した上で、豊かな自然の恩恵に感謝し、自然と共に生きる精神と困難を乗り越える能力を持ち合ってきたのだと思います。
現在、すでに強い一步を歩み始めた人達もいますし、思い模様まだ動きにいる方も多くいます。
厳しい寒さに耐えてこそ美しい生き残らせ、豊かな実を結ぶ植物の種のように、焦らず自分のペースでゆっくり向かい合い、内なる力を蓄えていく事も、着実な一步のはじまりで未来につながるのだと思います。
岩手のみはゆくべきかもしれません、多くの皆さまにお力添えいただきながら、寒さに負けず、肩寄せ合いながら、人々と避難所の環境を整えていく人たちに、高村光太郎が書いた、「岩手の人」を思い出します。

「わわのひと」／復興に向かうひととプロジェクト：インタビュー

棟上げの餅を撒く
photo : Satoshi IWAMA

変わつてしまつた浜の風景、変わらない浜への想い

ユイノハマプロジェクトは、「二〇一二年四月より美術家・岩間賢と狩獵家・大島公司が中心となり、避難所となつてゐた荻浜小学校の子どもたちや、桃浦地区のこれからに向けての支援活動を行つてゐる。鮎や鮭が遡上するほど美しく子どもたちの学びの場ともなつていた沢の瓦礫撤去や整備、運動会や、サマーキャンプ、夏の林間学校など、学校や地域活動の支援を現地に通いながら続けてきた。

桃浦地区は牡鹿半島の石巻寄りにあり、牡蠣の養殖で世界的に知られた場所でもある。

（五月末）に解散し、仮設住宅や借りた荻浜小学校の避難所を早期

り上げ住宅へとそれぞれ散り散りになつてゐた。地区の漁業関係者は、港湾施設の瓦礫撤去や漁具の回収整備作業の時に顔をあわせるが、それ以外の方々は集落に戻る機会も場所もほとんど無くなつてしまつてゐる。

「荻浜小学校は小さな学校で、震災前でも二十二名の児童しかいました。二学期が始まつた時で九名の子供しか残つていませんでした。この学校の校長先生をはじめ点で九名の子供しか残つていません。この学校の校長先生をはじめ点で九名の子供しか残つていません。この学校の校長先生をはじめ

り上げ住宅へとそれぞれ散り散りになつてゐた。地区の漁業関係者は、港湾施設の瓦礫撤去や漁具の回収整備作業の時に顔をあわせるが、それ以外の方々は集落に戻る機会も場所もほとんど無くなつてしまつてゐる。

じく、浜の未来を憂える。

「あつたなら」という後藤さんや桃浦の方々の想いにふれ、ユイノハマプロジェクトの二人は少しでも力になれるよう手立てを探つてゐた。

また、同地区内にあり、桃浦地区を始めとした近隣の7地区を校区としている荻浜小学校の児童も、震災前の二十二名から、現在は九名になつてしまつた。

ユイノハマプロジェクトは、「二〇一二年四月より美術家・岩間賢と狩獵家・大島公司が中心となり、避難所となつてゐた荻浜小学校の児童も、震災前の二十二名から、現在は九名になつてしまつた。

浜を感じる。 浜を考慮する「場所」

（二〇一一年初夏）「浜のこれからを考えるときに、海のそばで気兼ねなくみんなで集まれる場所が

あります。」

宮城県漁協の桃浦出張所支部長で牡蠣養殖を営む後藤建夫さんは言います。

「浜の整備や牡蠣の養殖作業を

するときには、いまは屋根があつて

いる後藤さんや、浜への想いをもつ

て、ほとんどの人が浜を出ていきま

した。今は「桃浦へ戻りたい」と

願つていても、そのまま市内で生活

する時間が長引けば、戻らなくな

る可能性もあります。このままで

は誰もいなくなつてしまつ。この浜

をなんとか存続させたいんです。」

（瑞）桃浦地区の高台にて民宿「幸」を営み、荻浜小学校のPTA会長でもある甲谷泰成さんも同

じめません。

生は言う。「震災に見舞われまし

たが、この浜は海も山もごく身近

にあり、それぞれの恵みを現場で

学べる場所です。学びの場は校舎

と校庭だけではない。四季おりお

りの季節の変化が子どもたちに

いろいろなことを教えてくれる場所

なのです。学校といつぱりを超えて生きることを学ぶ場として、浜の中行事をする際に集まる場所。転校をしていった子どもや荻浜小学校に通う子どもたちがいつでも集まる遊び舎。今、できることをひとつずつお手伝いしたい」と語る。

大島さんはまた、「桃浦や牡鹿半島は自然や天然資源が豊富で、その自然の恵みを活かす知識や技術を、これからの方々として伝えいくべきだと考えます。そのための拠点という使い方や、将来的には牡鹿半島の入り口といふ立地を活かして、牡鹿半島のこ

ユイノハマプロジェクト 岩間 賢さん
大島 公司 さん

P4 34



photo : Satoshi IWAMA



photo : Satoshi IWAMA

ユイノハマプロジェクト

共に過ごし、共に汗を流し、とき同じ金の飯を食う。」ことにより生まれる関係をベースに、石巻市につながる活動を行っている。美術家・岩間賢と狩獵家・大島公司を中心に、デザイナーや建築家、地図表現学研究者などが集まり、長期的視野を持って2011年4月に設立された。

お問い合わせ

Email : studio@oh-mame.com
http://www.yuinohama-p.com



御釜神社では、7月4日に花開浜で海藻（ホンダワラ）を刈り取る神事、翌5日に古式にのっとり藻塩焼神事が行なわれている。



合同会社 順晴れ塩竈（がんばれしおがま）
塩竈にある御釜神社には、製塩法を伝えたとされる鹽土老翁神が祀られている。「順晴れ塩竈」は、そんな「塩づくりの聖地」である塩竈をアピールすべく、昔からの製法で塩づくりを行なう合同会社だ。震災後、工房は神棚と竈を残すのみとなつてしまつたが、いちはやく活動を再開。地域の宝をアピールし、伝統的な塩づくりを後世に残すための『塩のミュージアム』を構想している。

お問い合わせ
宮城県塩竈市港町2丁目15-9
http://www.mosio.co.jp

故郷に埋もれている「宝」を掘り起こし町の人々が誇れる「塩のミュージアム」をつくりたい

宮城県の中央にあり、陸奥国一の塩竈市。鹽竈神社の門前町として知られる御釜神社には、製塩法を伝えたと言われる鹽土老翁神が祀られている。塩竈はその地名に

あるように、古くから塩づくりが盛んだ土地だ。合同会

社顔晴れ塩竈は「塩の聖地」で

あるこの町を活性化させるため

に五年前に設立。水産加工業を

本業とする及川さんの工房の部

を改装し、一年前から昔ながらの

もの、各方面からの協力をオーブンに受け入れ、桃浦の「わ」を広げてい

きたいとユイノハマプロジェクトは

希望している。箱の完成がこれか

らの始まり。ほどき、結びながら、

ジエクトは統していく。

（瑞）桃浦地区の高台にて民宿「幸」を営み、荻浜小学校のPTA会長でもある甲谷泰成さんも同

じめません。

宮城県塩竈市 岩間 賢さん
及川 文男さん

P5 35



photo : Reiji OHIE



photo: Takeshi Hosokawa

まちづくりの活動をしていた僕らにこそやるべきことがある

地方の商店街に見られるシャツターハイ化の問題。ここ釜石にある商店街も例外ではなく、和菓子店を営む鹿野さんは七年前、商店街を含む釜石の町をもり立てた特定非営利活動法人(@リアスNPOサポートセンター)を設立。まだまだNPOの役割が浸透していないかたの商店街で、イベント開催、情報誌の発行など、外に向かって情報発信をはじめつづけた。そして、「この町をもうど楽しくしたい」と、コミュニケーションを広めるためのセミナーを開催中、あの地震と津波がこの町を襲った。「五日を越える津波なん

て想定外で、建物が倒れて町がぶれていくのを見たときは映画のなかにいたようでした。正直、今は現実のなかにいるのかどうか、わかつていません。」

そんななか、鹿野さんは四月二八日、中間支援組織となる県内NPO法人メンバーたちと「地域いわて連携復興センター」を立ち上げる。「僕たちも家がなくなったり、町も悲惨な状態で避難生活をしていました。そこへいろんな方が被災地に手伝いに来てくれました。そこで、これまでまちづくりの活動をしていた僕らは、何をやれることはやろうか?」といふことだ。

のとき、自然の力を人間が防ぐのは無理なんです。逃げさえすれば、その方法さえ確立されれば、人は死なずします。それでは、安心して観光にも来てもらいたいし、生活も楽しめる町にしたい。そして、なにかあたたかい手を握る。それでもひとつ、「忘れられないように情報を発信する。」

震災後、私たちにはこれまで見えたことのない光景をいくつも目にして。陸に乗り上げた大型船、基礎ごと横倒しになつたビル、津波の圧力でねじ曲がった道路標識、ビルの上に乗り上げた車や船……。瓦礫の撤去作業が進む一方で、一般社団法人MMIX Labではこれらの中でも、洋服屋さん・写真屋さん・床屋さん・お肉屋さんなどいろいろな業種があります。そんな人たちが今いちばん必要としているのは産業復興のための支援物資です。同業者の方ならわかる「これがないと大変だろう」という道具の支援が必要とされています。もし、そういう道具があつたり、「何かできます?」という声がありましたら、僕のほうに声をかけてください。」

いわて連携復興センター

震災後4月28日設立。地域住民による地域再生を目指して、支援や助成情報を発信し、コミュニケーションを立ち上げるために情報提供する。商店街の事業再開に必要な資金やアイデアを得るために支援団体と繋ぎ、「つながり・にぎわい・ふれあい」を取り戻していく。宮城や福島などで活動する団体と連携も視野に入れている。

お問い合わせ
岩手県釜石市浜町1-1-1 318号
http://www.ifc.jp



「3・1・1メモリアルプロジェクト」は今後何年にも及ぶ長期的なプロジェクト。村上さんは、地域の人々にこうしたメモリアル的な存在を組み込みながら新しい町の設計をしても

「創造力」がより良い町をつくる

さまざまな支援団体と、再起を誓う町の人たちの手によって釜石の町は動きはじめた。「こうなってほしいという望みは、この町に携わる人の数だけ持つてほしい」と語る鹿野さん。そこで、本人にその望みを尋ねた。

「大変な津波だったけど、僕は海をキレイにならないといい、これからも海の魅力をいかせる町にしたいと思っています。ただもう人が死なない町にしたい。またきっとこういう災害は来ます。そ

お問い合わせ
宮城県仙台市青葉区二日町6-6 201号
http://mmix.org

各種メディアを融合させ、アートと地域を結び創造的芸術活動を行う団体。震災の記憶を後世に伝えるプロジェクトを行うとともに、表現者と仮設住宅者が一緒に創作活動を通じて出会い、協働する環境を作っていく。

お問い合わせ
宮城県仙台市青葉区二日町6-6 201号
http://mmix.org

岩手県
釜石市

いわて連携復興センター
かの
鹿野 順一さん

P4 3

応援が必要なときも、生活も観光も楽しめる町になつたときも僕らのことを見守つていてほしい



photo: Takeshi Hosokawa

言葉や写真では伝わらない「メッセージ」

震災後、私たちにはこれまで見えたことのない光景をいくつも目にして。陸に乗り上げた大型船、基礎ごと横倒しになつたビル、津波の圧力でねじ曲がった道路標識、ビルの上に乗り上げた車や船……。瓦礫の撤去作業が進む一方で、一般社団法人MMIX Labではこれらの中でも、洋服屋さん・写真屋さん・床屋さん・お肉屋さんなどいろいろな業種があります。そんな人たちが今いちばん必要としているのは産業復興のための支援物資です。同業者の方ならわかる「これがないと大変だろう」という道具の支援が必要とされています。もし、そういう道具があつたり、「何かできます?」という声がありましたら、僕のほうに声をかけてください。」

緊急支援が落ち着きを見せ始めた頃、美術家として「アートに何ができるか?」という疑問にひとつ答えを導き出す。「緊急支援で沿岸部に日用品や食糧を運んでいたとき、原型をとどめないような強烈な光景に衝撃を受けました。そして、これはきちんと残して後世に伝えいくべきだと考えたんです。それが被災地の今」を外に伝えている。これだけ復興したんだよ」ということも含め、忘れられないようになります。映像、写真、証言、科学的数据は多くの人が残していまして。それも非常に重要なことであります。でも、生き残った人々を見たとき、どうしてこんなものがあるの?と、会話が生まれます。そうして話がつながっていくことで、同じようになれば災を繰り返さない。語り継ぐことで命が助かるのであれば、それでプロジェクトは成功だと思います。」

私が、成立させるためには地域住民の賛同も必要不可欠だ。

「目の前で被害にあった方々も通りにするだけでは意味がない」とか、「はやく片付けてくれ」という声がないわけではありません。だから、やはりもう見たくありません」とか、「はやく片付けてくれ」という声がないわけではありません。ただ、大切なのは今まで以上にならないといけない。そうしたときに、必要になるのは「創造力」なんです。気仙沼のケーリーさんとお話をしたとき、「主人が家も職場も流された。でも、自分たちにはレシピが残っている。レシピさえあれば再建できます」と言われたんです。そのとき、「どうしてこんなものがあるの?」と、会話が生まれます。そうして話がつながっていくことで、同じようになれば災を繰り返さない。語り継ぐことで命が助かるのであれば、それでプロジェクトは成功だと思います。」震災以前の町に「復旧」といって思いました。

私たちが目にした光景、被災した人々の体験を「データ」ではなく、そこにある「もの」に語らなければ、それが村上さんの思い描いた「震災以前の町に「復旧」する」のではなく、創造力を働かせ、新しい機能を持った町へと「復興」させる。それが村上さんの思い描いた「町づくり」だ。二〇〇〇年に二度とも言われる自然の災害で、人間の力では考えられないものが残されました。これが村上さんの思い描いた「町づくり」だ。

の被害を受けたわけですから、もと通りにするだけでは意味がないと思うんです。今以上、これ以上にならないといけない。

「もの」が語り、桜が示し続ける後世に語り継ぐことで、助かる命がある



宮城県仙台市
一般社団法人 MMIX Lab
村上タカシさん

P5 12



photo: Izuru ECHIGOYA

